http://www.mse.waseda.ac.jp/課題１

「声の文化」と「文字の文化」の違いの一つに感情があげられる。「声の文化」では感情移入がよく見られる。声は音量やトーンなどといった性質を変化させることで、聞き手に感情を瞬時に伝えることができるからだ。例えば、大きい声で早く話すことで焦りや興奮を伝えることができ、小さい声で遅く話すことで安心や落着きを示すことができる。一方で、「文字の文化」では感情移入がしにくい。確かに小説などでみられるように、言葉や文法を巧みに使うことで、読み手に感情を伝えることは可能ではある。しかし、文字のみで人が直感的に相手の感情を瞬時に読み取ることは困難である。なぜなら、声は性質を変化することで感情に関する様々な情報を伝えられるが、文字はある決まった型でそして決まった情報量でしか感情を表現できないからである。ところがSNSの普及に伴い、この情報量の差によるこの両者の違いがなくなりかけているように思える。例えば、顔文字や特殊記号を使い、相手が直感的に理解可能な感情の情報を送ることで、相手に自分の感情を瞬時に伝えている。これにより、短い文章でも情報量が増え、まるで会話のようなやり取りが文字のみで可能になっている。このように感情移入の違いという観点から見ると、「文字の文化」は技術の発展とともに「声の文化」近づいていると行っても過言でない。

課題２

情報化に伴い、電子媒体が普及する中、紙媒体もまだ使われ続けている。この典型的な例として新聞紙とインターネット上のニュースサイト（以下ネットニュース）が挙げられる。今回はこの二つのメディア技術を比較していきたい。

新聞紙は一日のうち刷られる時間が決まっているため、ある決まった時間までのニュースしか伝えられないが、ネットニュースはインターネットを使うため、ニュースを更新する頻度が速いため、多くの情報がネット上にあげられる。しかし、ニュースの更新速度が速いと見逃す情報が増えるため、必ずしも利点となるわけではない。現に新聞紙は決まった時間にしか発行されない分、載っている情報は厳選されていて重要なものが多い。このように、新聞紙とネットニュースでは人々に伝えられるタイミングと情報量に主な違いがある。

この違いを踏まえ、新聞紙は効率的にニュースを読みたい人に最適である。確かに、ネットニュースは携帯機器などを使うと、新聞紙より手軽に読むことができるため、新聞紙より良いかもしれない。しかし、ネットニュースは情報量が多いため、得られるニュースに偏りができてしまう。例えば、ネットニュースで自分の好きな分野のニュース一覧を見ていると、次々に興味のある記事が目に入ってしまい、最終的にはその分野に関する情報だけしか得られなくなってしまう。これに対し、新聞紙は様々な分野のニュースから重要性、信憑性の高い記事を記載しているため、短時間で主なニュースを読みたい場合は新聞紙のほうが良いと考える。

前述したように、ネットニュースには大量のニュースがある。そのため、ネットニュースは全体的なニュースを読むのはなく、自分の専門分野に関する情報を集めるのに有効である。例えば、科学技術に関するニュースのみを読むことで、自分が持つ専門的知識からそのニュースを考察することができ、さらなる自分の好きな分野に対する理解を深めることができる。さらに、インターネットを使うことで、そのニュースから得た知識をさらに調べることが可能である。このように、ネットニュースを使うことで、自分の専門分野に対する知識を広げるきっかけとなると考える。そのためには、十分な時間と余裕がなくてはならないため、短時間に全体のニュースを見たい人には不向きと考える。

以上より、新聞紙とネットニュースは読むタイミングと得たい情報量によって使われ方が違う。